

3年目の発掘調査



二の丸推定地調査風景

北上空からみた長沼城跡 令和5年2月撮影

令和3年度から行っている、長沼城跡の発掘調査が今年度も始まりました。

長沼城は武田信玄ゆかりの城とされ、千曲川沿いの平地に築造された南北約650m、東西約500mの大規模な平城と考えられています。

昨年度は、中堀推定地、二の丸推定地、天王宮（土塁推定地）の調査を行い、礎石建物跡や井戸跡などがみつかりました。遺物では陶磁器、鉄砲玉などの金属製品、五輪塔などの石製品が出土しました。

今年度の発掘調査について

今年度は4月中旬から約40名で発掘作業を開始しています。現在は、昨年度に続き二の丸や中堀推定地などの調査を行っています。発掘の成果は、発掘だよりや現地説明会等で順次公開していく予定です。

天王宮の調査について

昨年度冬から今年4月にかけて、長沼城跡の南側に位置する天王宮の調査を行いました。

天王宮は長沼城跡で唯一残存する土塁跡と考えられており、この天王宮の構造を把握することで、長沼城の土塁がどのように築造されたのか知る手がかりになると考えられます。

調査では、天王宮に生えていた木を伐採し、天王宮を断ち割って土の重なりを観察しました。



天王宮（西から） 令和3年撮影



天王宮（西から） 令和5年4月撮影

すると、土を何層にも重ねて突き固めることで地盤を強化する「版築^{はんちく}」と呼ばれる構造や、土塁を作り替えた痕跡がみつかりました。これにより、天王宮が土塁の跡であること、そして一度作られた土塁の上にさらに土を盛り、大きく作り替えていた可能性があることがわかりました。

二の丸推定地の調査について

昨年度に引き続き、二の丸と考えられている箇所を調査し、建物跡の有無や堀との境目を確認する作業を行っています。現在は礎石建物跡や炭の集中部、石を投げ込んだ穴の跡などがみつかりました。遺物では五輪塔の一部や石臼^{いしうす}、陶磁器^{こいし}、碁石、骨、そして鉄砲玉や匙^{さし}（スプーン）などの金属製品が出土しています。長沼城で人々がどんな活動をしていたのかを知るヒントになるかもしれません。



礎石建物跡（西から） 長さ約5m×幅約5m



青銅製 匙 出土状況 長さ約20cm



長沼城跡の発掘は
まだまだ続きます。
これからもご協力
よろしくお願いいたします！

長沼城跡 発掘だより No.3

担当者：伊藤 広田 小出 中野 熊本

電話：080-2396-3624

長野県埋蔵文化財センター

住所：長野市篠ノ井布施高田963-4

電話：026-293-5926

HP：<https://naganomaibun.or.jp/>